

尼北だより



学校通信 臨時号
平成26年12月19日

尼崎市立尼崎北小学校
校長 川見 孝男

平成26年も残すところあとわずかとなりました。

日本には節目節目に自分のことを振り返り、新たな目標を持つというよい習慣があります。新年を迎えるこの時期は1年の反省をするとてもよい機会です。ご家庭でも1年を振り返り、良かったこと、不十分であったことなど明らかにして次の年に向けて、新たな目標を立ててみてはどうでしょうか。



【朝のなわとびタイム】

4月に実施されました「全国学力・学習状況調査」の結果について校内の検討委員会で分析を行いましたので報告させていただきます。

調査対象は6学年児童(126人)で、調査内容については、国語A・B(「知識」・「活用」)、算数A・B(「知識」・「活用」)と質問紙調査(学習、生活に関する意識調査)です。

【調査結果の主な傾向や課題、今後に向けて・・・】

- ・国語、算数ともに全国平均、兵庫県平均と同じような傾向である。【資料1】
- ・国語、算数ともに知識問題に比べ、活用問題の正答率が低い。【資料1】
- ・国語の「書くこと」に関する正答率が34.9%と特に低い。(全国平均とほぼ同じ)【資料1】
- ・調査問題は文章量が多く、回答でも文章力が必要な場合もある。国語の授業を要として、他教科の学習においても、文章の読解力や書く力を身に付け、長文にも対応できる力が身につくよう指導法を工夫していきたい。
- ・児童は、日頃の授業の中で、「めあて・ねらい」を意識して学習している。【資料2(18)】
- ・1時間の授業の後で振り返りを行うことによって学習内容の理解が深まっている。【資料2(19)】
- ・「将来の夢や目標」を持っている児童は多いが、「自分にはよいところがある」など自尊感情の高い児童の割合が若干少ないので、自分に自信を持つような指導を心掛けたい。【資料2(6)(7)】
- ・家庭学習で、宿題はほぼしているが予習、復習をしている児童の割合が少ない。【資料2(12)】
- ・計画を立てて勉強するなどの自主性に欠ける。面倒なことから逃げる傾向がある。【資料2(11)】

【その他、尼崎市全体に関わる教育委員会の考察】 * 資料省略

- ・家庭学習において、自ら予習・復習に取り組むことは、学力に大きな影響があり、計画的に予習・復習ができるように習慣づけることが大切である。
- ・本年度の調査で、「新聞を読む」「ニュースを見る」といった社会への興味・関心が学力に良い影響を与えていることが明らかになった。
- ・学力・学習状況調査が始まった平成19年度と比べて、「2時間以上ゲームやインターネットをする割合」が、小学校で13.4ポイント、中学生で8.0ポイント増加している。これらの生活習慣が学力に影響することは平成25年度の調査結果で明らかにされている。
- ・ゲームやインターネットの時間を家庭での会話や学習時間の充実に向けることが望まれる。
- ・市全体でも携帯電話やスマートフォンの所持率が上昇しているが、これらを所持していることは学力にあまりよい影響を与えていない。今後も引き続き、学校と家庭が連携し、使い方についてのルールをしっかりと守らせると共に、情報モラルについての指導を継続する必要がある。